

幸せな社会づくりをめざして

高齢者と共に生きる

◆高齢化の状況

わが国の高齢化率（総人口に占める65歳以上の割合）は、内閣府の「平成29年版高齢社会白書」によると、平成28年10月1日現在、27・3%で、約4人に1人が高齢者となりました。

さらに、今後も総人口が減少し、高齢者が増加することで、約20年後には高齢化率が33・3%に達し、国民の約3人に1人が高齢者になると推測されています。今まで、これほどの速さで高齢化率が高まった国は他にありません。

長生きする人がたくさんいることは喜ばしいことですが、社会保障費の増大などの経済的な問題だけでなく、介護施設・介護者の不足など、高齢者やその周りの人たちに関係がある問題も、これからさらに増えていくと考えられます。

◆高齢者を支援するために

高齢になると、個人差はありますが、精神的・肉体的にさまざまな変化があらわれます。

そこで、適切な支援や介護のため、一般的な高齢者の特徴を知っておくことが求められます。

- 身体機能の特徴
- ・ 関節や骨が縮む
- ・ 運動神経が低下する
- ・ 視力・聴力が低下する

- ・ 温度や痛み鈍感になる
- 精神機能の特徴
- ・ 思考力・判断力が成熟する
- ・ 単純なものが忘れが多くなる
- ・ 情緒が不安定になりやすい
- ・ 新しい環境になじみにくい

また、さまざまな理由から、外に出にくくなり、社会から孤立してしまう高齢者がいます。

◆共生社会に向かつて

高齢者にとって過ごしやすい社会は、誰もが過ごしやすい社会であると言えます。国や自治体が各種の施策を実施していただくだけでは、そのような社会を実現することはなかなかできません。

私たち一人一人が、高齢者の特徴を理解し、それぞれに応じた介護や社会参加の支援など、必要な配慮をしていくことが大切です。

さまざまな状況に置かれた人たちが、お互いに理解し合い、結びついていく社会を作っていくことが、高齢者を含め、私たちに必要なことだと思います。

いずれは誰でも高齢者と呼ばれる時が来ます。高齢者も自分自身ととらえ、向き合うべきではないでしょうか。

■人権政策課

☎23-5415
FAX 37-3184

美術館通信

平成29年度 米子市美術館 特別企画展 II 米子美術家協会 - 70年のあゆみ -

米子美術家協会（米子美協）は、妹尾輝雄ら鳥取県西部の美術教員を中心に「自分たちも美術家集団を」と戦後間もない昭和22年（1947年）1月に発足し、平成29年（2017年）に設立70周年を迎えました。

会員らは既存の美術団体の枠を超え、米子市美術展覧会（市展）、鳥取県美術展覧会（県展）はもとより、中央展に出品する画家も多数参集しました。同会は、自ら切磋琢磨する場とするとともに、米子を中心とした県西部の絵画界を盛り上げ、現在もなお継続して活動しています。

本展は設立当初の会員である妹尾輝雄、梶谷寿雄、金畑実、坂口寛夫をはじめ米子美協の礎を築いた旧会員から現会員まで洋画、日本画、版画作品約120点を紹介することにより、70年間にわたる同会の軌跡を辿ります。

◆会期 1月21日（日）～2月18日（日）

【毎週水曜日休館】

※ 観覧料や関連事業の予定は、24ページ「1月の催し」をご確認ください。

問合せ 米子市美術館 ☎34-2424、FAX 33-0679



妹尾輝雄《ランプ》制作年不詳 個人蔵